



高橋成樹さん

香南市在住 ウッドアーティスト・山師

とともに生きるアーティスト

たかはし

なるき



山と海、自然に囲まれた私たちのまち、香南市。このまちで、山と向き合いながら作品を生み出す若いアーティストがいます。山師であり、県内外で活躍するウッドアーティストの高橋成樹さんにお話を伺いました。

担当 広報編集委員 森本美穂

山は心が自由になれる場所

高橋さんは平成9年、南国市生まれ。小学校入学とともに、家族と香南市へ引っ越ししました。学校は佐古小学校、香我美中学校に通い、陸上部に所属するなど、ごく普通の子どもの時代を過ごしたそうです。

父は大工、祖父は製材業。木とともにある生活が身近にあり、祖父が山の世話をしに行くときには、まだ幼い高橋さんをよく一緒に連れて行ってくれたといいます。山には小さな小屋があり、泊まりがけで週末を過ごすこともありました。

「子どもの頃、少し人の目を気にするところがあった。

祖父も口数が多い方ではないし、山は自由でのびのびで楽しい遊び場でした」

祖父から教わって、学校へ上がる前から枝打ちなどを始め、成長とともに高橋さんができる作業は増えていきました。高校生の頃にはショベルカーに乗って山仕事を手伝うように。小学校に上がる前から高校3年生まで、山へ通う生活は続いたそうです。



▲祖父・和盛(かずもり)さんと成樹さん

選んだのは「山の仕事」

高校3年生のときに進路を考える中で、「ずっと好きだった山で働くのがいいのでは」と思い立った高橋さんは、開校2年目の林業大学校へ進学。卒業後は、林業会社に就

職し、山師として働き始めました。「こんなに山に囲まれた高知でも、ほとんどの人が山や林業について知識や関心が無いことを知りました。木を切つて材木にするのって、環境破壊だと言われて嫌な思いをしたこともあります。でも、戦後に日本中に植えられた木の多くは50年以上が経っているの、間伐や植林をしないと山の生態系が壊れて、町の暮らしにも影響が出てしまうんです」



▲令和7年11月に開催された森林教室の様子 香我美町の山できのこの原木作りを行った

これからの目標ー山の魅力を、世界へ

最後に、これから挑戦したいことと夢を聞きました。「海外で個展をしてみたいです。僕の作品を通して、山の魅力や木が持つ力をもっと多くの人に伝えたい。とにかくたくさんの人に『山について知ってもらおう』を目指しています」

高知の山で育った木が形を変え、誰かの暮らしの中で生き続ける。

山とともに生きる高橋さんの挑戦は、確かな歩みで続いていきます。



Instagram



YouTube

山とともに生きるアーティスト 高橋成樹さん

高橋さんの最初の作品は、自家用に作った素朴なコーヒークップでした。思いがけず周囲からの好評を得て、作品づくりのめり込み、自身のSNSで発信を始めました。転機となったのは2019年。知り合いから依頼を受けて制作したケーキスタンドがSNSで反響を呼び、東京での個展開催につながったそうです。その後も個展の依頼が相次ぎ、2020年に会社を退職。現在は創作活動を中心に、フリーの山師としての仕事も続けています。

「子どもの頃から絵を描くことやものづくりが好きでしたが器用ではないです。でもどうやったらその木の魅力

ものづくりが開いた新しい道



を、一番引き出せるかを考えながら作品を作っています。一本一本の木に個性があるので、作りながら、木の性質や割れ・木目を見て形を決めています。一つとして同じものはありません」



▲木の持ち味を生かしたローテーブル

“使われない木”に新しい命を



作品に使う木は、自分の山から切り出した木だけではありません。

製材所で曲がりや虫食い、腐りなどが理由で木材にならずウッドチップになる予定だった木や、長い間倉庫に保管されたままになっていた木を譲り受けることもあるそうです。

ことばかりでした」そう笑って語る姿は、高知に暮らす20代の青年らしく、印象的でした。



▲存在感を放つオブジェ



▲アトリエに整然と並ぶツール

